

香川大学教育学部

# 附属坂出学園だより

～ 改革と周知 ～

第65号

2020.3



今年度もあっという間に終わりがやってきました。今年度は、改革と周知に多くの時間を割いたという感じがしています。このような中でも子供たちは成長しています。4月には、それぞれの子供たちが新しい場所、新しい学年で学びます。子供の成長に比べたら、私たちの改革は、まだスピードが遅いかもしれません。子供たちの成長に負けないように、よい方向を見つけ、成長することができればと思います。ご協力よろしくお願いたします。

香川大学教育学部附属坂出小学校・幼稚園 校長 坂井 聡



附属改革が求められる中で私たち卒業生の保護者もこれからは地域サポーターとしての役割が求められていると考えます。附属坂出学園に通う子供たちには将来大きな布として次の世代の日本や世界を包みリードしてほしいと願います。その縦の糸に先生方や保護者のみなさんがあり、そして横の糸が私たち地域サポーターなのかもしれません。私たちは世代を越えた絆を大切に支援活動に取り組みます。よろしくお願いたします。

附属坂出学園 後援会会長 西条 仁

## いよいよ4月スタート！ 夢広がる附属型コミュニティスクール



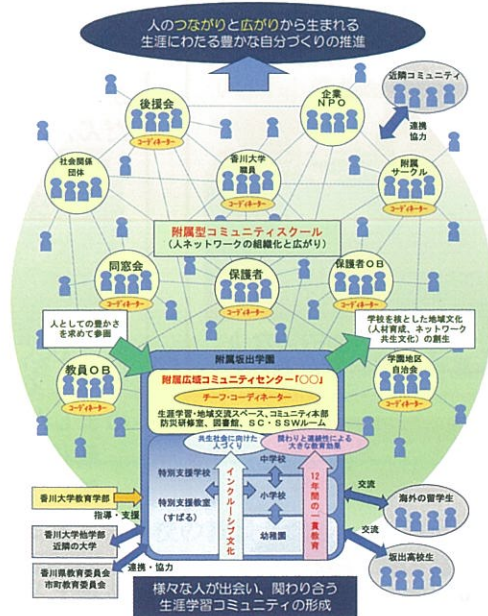
登下校の見守り（JR親の会）



保護者によるキャリア教育



ママーズによる学習支援



運動会に参加した地域の方々



地域の方々も一緒に天体観測



近隣の方々を招いた防災研修会

### 学校支援の充実

学習支援（ママーズ、じいじいず）、登下校見守り、土曜メンテナンス  
キャリア教育（保護者、大学）、CAN学習（大学、企業）等

### 生涯学習の場づくり

天体観測会、音楽会、人権講演会、防災研修会、華道・茶道  
ふれあいハイキング、ふれあい祭り、ウエンディの会 等

人のつながりと広がりによってできた多様で豊富な教育人材の活用

附属坂出学園は、地域や保護者の方々の願いをもとに、コミュニティスクールとしてよりよい活動を生み出します。

○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

2学期後半頃から、今まで一緒に遊ぶことがなかった友達と遊ぶなど、新しい人間関係が見え始めました。年長児にあこがれて一輪車に挑戦し続けたり、どろだんごづくりにじっくり向かったりする中で、ゆったりとした時間を過ごしています。「こうやってみたい?」と思いを伝え合う中で、イメージを共有し、ごっこ遊びの楽しさを互いに感じ合う姿もあります。もちろん、気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、思いが伝わる嬉しさと、思いが伝わらないもどかしさを経験しています。これも協同性の育ちの過程として、その人らしさを大切に、ゆっくり丁寧に関わっています。



みんなで鬼退治!

【年中児】

仲間と互いに考えや思いを出し合いながら遊びを進めていく姿があります。ケンカも自分たちで解決しようとし、解決後に「先生、ほく謝まったんや」と照れながら報告する表情には、自信が見えます。大きくなった自分を感じて、年長になることを楽しみにしている年中児です。

2月、年長児が小学校体験で留守の日、こっそり年長組(青組)に入り、「明日、私たちも青組体験をしよう!」と計画する姿がありました。次の日、なんと兄の青帽子や、青色のタオルなどを身に付けて登園する人がいました。青組にしかないビー玉コースや長いスカートを満喫し、片付けも完璧にできました。



ビー玉コース面白い♪

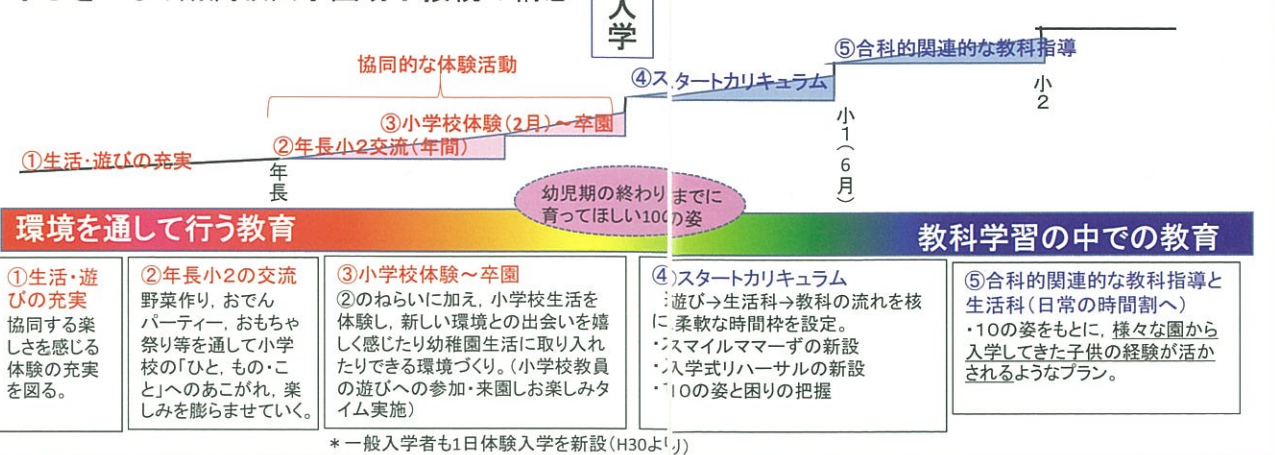
年中児の後半、やりたいことなどを自分たちで相談しながら決められるようになり、それを形にしていける力が育っていることを嬉しく思っています。

香川大学教育学部 松本博雄准教授より

「学びをつなぐ」ことで期待されるのは、何より子供たち一人一人の学びの構えを豊かに育むことでしょう。園生活で多様な経験を重ねている幼稚園児に、小学校生活を楽しみに感じられる機会が提供されること。それは同時に小学生、そして幼小教職員にとっても、新たな発見と学びの芽となるかけがえのない場となるはずです。



学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



③ 小学校体験

2月4日(火)からの3日間、附属幼稚園年長児30名が小学校にて体験入学を行いました。また、2月10日(月)の入学周知会の折には、一般入学予定者40名を含めた全70名の園児が1時間30分程度の体験入学を行いました。少しでも不安が軽減され、楽しみが増えればと願っています。

その一部を写真で紹介します。

(1) 2年生との交流(おもちゃの国へおいでよ)

2年生の手作りおもちゃを楽しみました。最初は説明を聞くことが多かったのですが、だんだんと夢中になり、「もう1回させて」などと、気持ちを表出させていました。難しいコース、簡単なコースと選択できるように工夫されており、どの子も構えることなく楽しめました。

最後には、2年生も一緒に楽しむ姿が多く見られました。年長さんのことを思いながら準備してきたことや一緒に楽しめたから、おもちゃの国がもっと楽しくなった等の感想が聞かれました。



①教えてもらう



②やってみる



③一緒に楽しむ

(2) 算数の授業に挑戦

最終日には、小学校の先生の授業を受けました。とても張り切っている様子で、先生が教壇に立つと、席に座ったり、問いかけに対して一斉に挙手したり、花まるをもらってうれしそうにしたりと小学校への期待をふくらませていました。



①先生が前に立つと



②一斉に手を上げて



③花まるは格別



④終わりのあいさつも

④ 幼小合同研修会の様子

入学予定児童の体験入学に向けて、幼稚園と小学校の教員が集まって話し合う時間をもちました。まず幼小それぞれのねらいを確認した後、昨年度の取組を振り返りながら、今年度の活動について計画を立てていきました。以前は、小学生が幼稚園児におもてなしする活動になりがちでしたが、これまでの研修を通して、お互いにとって学びのある活動にすることが大切だと気付き、活動内容が少しずつ見直されてきています。幼小が意見交流をすることで、体験入学がよりよいものになるだけでなく、教員にとってはスタートカリキュラムや特別支援の視点からの研修の場にもなっています。例えば子供の見取り方や働きかけ等の幼小での違いや共通点を知ることは、子供理解につながります。小学校は入学児童が幼稚園でどんな学びをしてきたかを知り、幼稚園は小学校入学後の生活を知っておくことで、幼稚園と小学校で「つながり」を意識した子供たちとの関わりをしたいと考えています。今後も幼小でチームとなって、取り組んでいきたいと思っています。



よりよい小学校体験に向けて

③ 小学校教員が来園して

小学校体験終了後から卒園までの間、小学校教員が来園して園児と一緒に遊んだり、幼小教員がコラボして小学校体験で学んだことを園生活に取り入れられるよう「小学校ごっこ」を計画したりしています。

2月10日は、小学校体験でなわとびや算数の授業を一緒にした低学年教諭が園児と遊ぶために来園しました。なわとびをしていた何名かの園児がさっそくやってきて「一緒にやろう、上手になりよるで」などと声を掛けてきます。

低学年教諭も小学校体験でしたことが引き続き、園での遊びの中に活かされ満面の笑みでなわとびを楽しみました。園児の思いに触れたり、幼稚園の教員から園児の行動の背景を聞いたりすることにより、幼小連携の重要性を実感しています。

幼小教員のコラボ「小学校ごっこ」は次年度1学期号で報告します。



先生 上手やな 僕も私も

(3) 給食は「わんこそぼ」方式で不安解消

「嫌いなものが食べられるかなあ」等、給食に不安をもつ園児は多いです。「わんこそぼ」方式で体験してみると不安も解消したようです(体験前は5名が不安、体験後は0名に改善)。少なく盛りつけ おかわりOK



(4) 一般入学者との合同の小学校体験

次年度最上級生となる5年生が「不安を解消してほしい」「小学校は楽しいところと感じてほしい」という願いを共有して企画・運営しました。一般入学者にも連絡進学者にも楽しんでもらい、満足感いっぱいでした。



①違う幼稚園のお友達と



②皆がなごむように

同教科小中合同研修 (1年次の成果)

互いの校内研修の授業・討議に参加し合っ、学んだことや更に深めたいことをアンケート調査しました。その結果の一部を紹介します。

①学んだこと

- 学習内容のつながり(系統性)が具体で分かった。
子供が発達していく過程が分かった。
小中を通して、大切にしなければならない教科指導の重要事項が確認し合えた。
目的をもった対話の重要性は小中一貫している。
小中双方の授業分析の仕方ので討議ができるので深い教材研究につながる。
互いの指導技術や単元のしかけ等を学び合えた。
討議の仕方が異なっており、専門性を深める中学校と子供の様子から代案で議論する小学校とそれぞれ特徴が分かり、刺激になった。
板書、掲示物等、発達支援やユニバーサルデザインの視点が参考になった。

②さらに深めたいこと

- 教科でめざす姿、ゴールのイメージを小中で共有化して進める。
互いの研究会に検討段階から参加し、互いに意見を述べ合う。
つながりのある単元や専門性が求められる単元など小中の教員がコラボすれば指導効果が上がることを絞ってコラボ授業を行う(今年度英語で実施した小中のコラボ授業は双方の教員に効果があった。2学期号参照)。
今年度中学生が小学生を教える形態を、英語で実施して見て双方に効果があった(右頁参照)。他教科でも可能性を探る。
小学校のノートを中学校に持ち上がり活用する。
合同運動会を活用し、9年間のカリキュラムを構想する。
互いの開発物を共有する。

その他にも開発的な意見がたくさんありました。効果的・合理的に進められるよう、そして、子供の成長に寄与する一貫教育になるよう、各教科チームで知恵を出し合い進めていきます。



共にグループ活動を観察

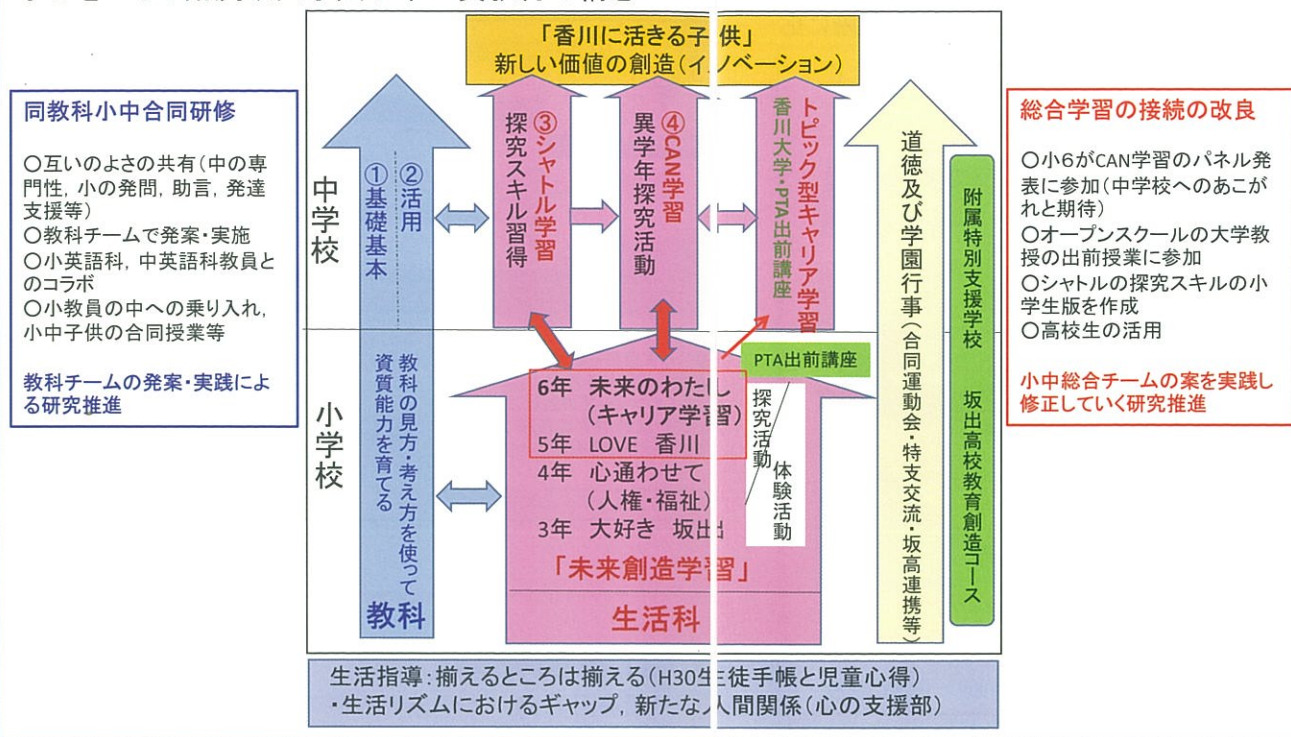


小学校の討議で意見を述べる中学校教員



算数・数学チームの協議

学びをつなぐ附属坂出学園小中一貫教育の構想



総合学習「CAN」

CAN2019最優秀研究 青雲賞「黄身(君)を助け隊」が受賞!

11月に行われた校内文化祭では、CAN賞に選ばれた5つのクラスターがステージ発表を行い、投票によって今年度の青雲賞が選ばれました。卵を高い所から落とす実験を行いました。

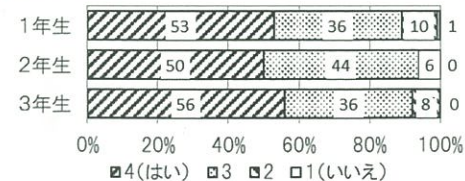


みごと青雲賞を受賞した3人

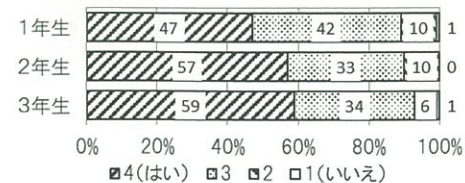
CAN2019 課題を追究する力がついたことを実感!

CAN2019では、昨年度と比べて2時間編成の時間を多く設定したり、「CANの日」を2回から3回に増やしたりと、まとまった探究時間を設定しました。

「自分の探究活動に達成感を感じていますか」



「課題を追究する力はつきましたか」



英語授業コラボ

12月13日(金)に、小学6年生と中学3年生が合同で英語の授業を行う交流学习を実施しました。お互いに英語で自己紹介をしたり、ゲームをしたりしながら、楽しい雰囲気の中で学習することができました。

<中学生の振り返りより>

- 小学生と英語で交流する機会はなかったもので、自己紹介やゲームなどで英語でコミュニケーションすることができて、私もとても楽しかったです。
小学生がどこまでの単語を覚えているのかを話しながら見つけるのが難しかったです。

<小学生の振り返りより>

- 中学生は今までとても大きな存在に思えて話しかけにくかったけれど、英語で質問すると、様々なことを教えてくれたり、話しかけてくれたので、とても面白く、分かりやすく楽しかった。
習っていない単語ばかりで分からなかったけれど、中学3年生との交流も深められたのでとてもよかったです。



CANを終えた中学3年生の振り返り

- CANは探究のおもしろさだけではなく、実験や発表の仕方など授業につながることで、後輩とのコミュニケーションなど、たくさんを学ぶことができました。
CANとは「自分自身を成長させてくれたもの」でした。

文化祭を参観した保護者の方の意見

- CANはおもしろい取組だと思えます。自主的に学ぶ力を身に付けてほしいです。
学年を超えたクラスターでの探究活動は、より質の高い研究ができ、親しみのある学校生活になると思えます。

### 公開授業研究会

生活の中での児童生徒の実態から、「量感」を高める学習の必要性を感じ、算数・数学科において、発達段階に応じた「量を扱う学習内容」について検討して実践を行いました。

### 小学部

#### 【ことば・かず「箱幾つ分の重さかな？～運べる荷物を見付けよう～】

本校1・2年生の友達が運べる荷物の重さを基準にして、いろいろな荷物を各自が持ってみて運べるものを予想し、大きい天びんで実際に比べて確かめました。そのとき、箱幾つ分になるかを数字で示すことで、「〇kg」という単位を取り入れた表現につながるよう子供たちの理解を深めていきました。子供たちは実際に手で持つことで「重い」「軽い」を感じ、基準の重さよりも「重い」「軽い」を予想したり、大きな天びんで実際に比べたりするなど、意欲的に活動する姿が見られました。授業後の普段の生活での会話にも、「重い・軽い」の言葉が出てくるようになりました。



天びんで比べる様子

### 中学部

#### 【数学「分けて、量って、ドーン！～クッキーを作ろう～】

中学部の行事である12月の忘年会で、クッキーを作ってみんなに食べてもらう場を設定しました。そこで、数学科の授業では、クッキー生地全体の量と1個分の生地の量との関係を計算し、割合で捉えて見当付け、等分できることをねらいとした授業を行いました。直方体のクッキーの生地の真ん中に当たるところを見当付けて正確に2等分し、それを繰り返して4等分、8等分をしました。等分した後、同じ量になっているか、ペアで重さを量って確認しました。活動を重ねるごとに見当付けが正確になり、スムーズに生地を切り分けられるようになりました。忘年会当日は、みんなに同じ大きさのクッキーを配り、おいしく食べることができました。



生地を等分している様子

### 高等部

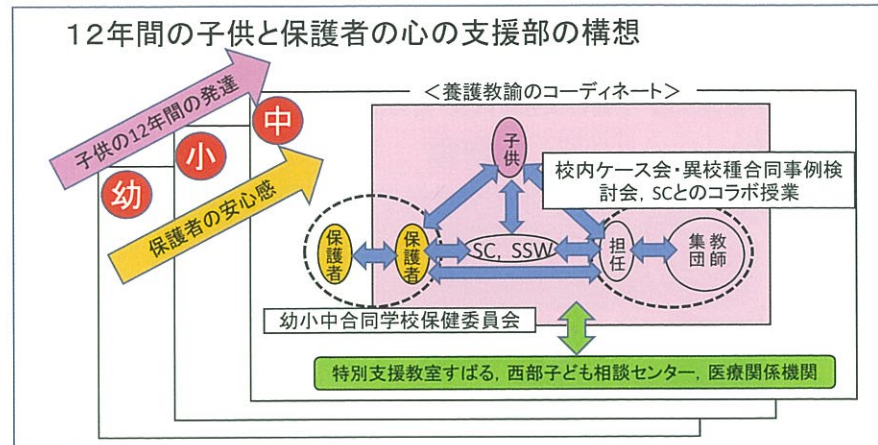
#### 【職業数学「正確な大体～長さ編～】

自分の頭の中で長さのイメージができれば、定規で長さを測らなくても、日常会話や情報の内容がより具体的に分かたり、伝え方が豊かになります。そこで、大体の長さの見当付けの精度が高くなるように、自分の体の部位の長さを基準として身近な物の長さや身長を予測し、実測して確かめる活動を行いました。一番近い長さの体の部位は何かと判断したり、自分の体の部位の長さから「それより約〇cm長いから△cm」と根拠をもって考えたりして予測できるようになり、予測の精度が高まってきました。授業後の学校生活の中で、「だいたい何cmかな。」と長さを意識して物を見たり、自分の体の部位を使って測ったりする生徒の姿が見られるようになりました。



手を基準として予想する様子

### 幼小中の養護教諭とスクールカウンセラー (SC)、 スクールソーシャルワーカー (SSW) がコラボして



### 香川大学医学部臨床心理学科 川人潤子准教授より

2020年度より、私もスクールカウンセラーとしてお世話になります。私が所属している医学部臨床心理学科は、2018年に誕生した新しい学科です。現代の心の問題は複雑化・多様化しており、その対応にはチームで取り組む体制が重要です。附属坂出学園は、子供・保護者・教員を他職種が繋ぐ環境を構築・実践されており、非常に先進的な取組と感じます。



### 幼稚園での心の支援部の取組

養護教諭、教員、SCが協働し、子供へのよりよい支援をめざしています。保護者向けの座談会「さくらんぼの会」では、「子供の自己主張をどこまで受け入れたらいいの?」「習い事ベスト3は?」といった話題があり、参加者同士で子育て中の悩みや楽しみを共有しました。

参観日には、副園長による保護者向けワークショップが行われました。保護者同士協力して「子育て川柳」を作り、子育てあるあるについて楽しく分かち合いました。SCも日頃の子供たちとの関りを川柳で発表させていただきました。今後も、保護者の皆様と一緒に子供への支援に取り組んでいきたいと思ひます。



ワークショップの様子

### SSWの専門性を活かした授業実践～他者と関わる力を育むSST～

養護教諭、SSWが協働し「他者と関わる力を育むためのソーシャルスキルトレーニング (SST)」を中学2年生対象に行っています。

授業後の振り返りより「お互いを知るよい機会になった」「困っていることや悩んでいることを話すことで気持ちが楽になった」「今までは、話す内容が一番大切だと思っていたけれど、これからは内容だけでなく相手の目を見て、声の大きさにも気を付けて話したい」などの言葉が出てきました。SSTで学習したことを家族や友達とのコミュニケーション、また教科授業のグループワークで活かせるように授業実践に取り組んでいます。



授業の様子

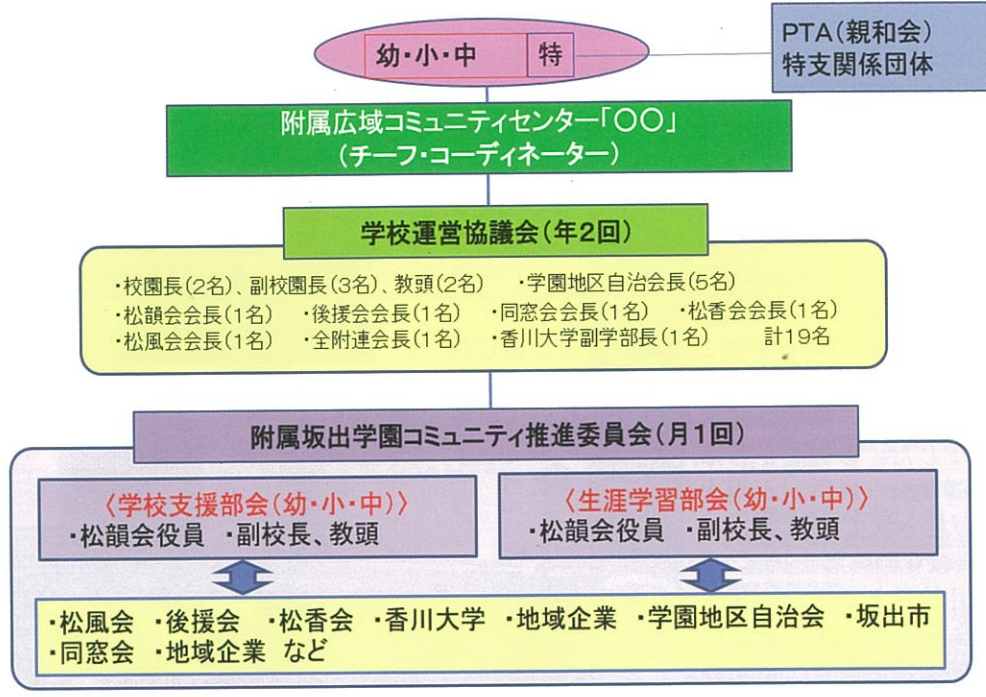
### 心の支援部の成果と次年度に向けて

SCの増員と、SSWの配置により、幼小中の連携した多角的な支援体制が一層整いました。以前より子供相談の時間枠が増え、定期的にお話に来る子供や、校内巡回時に子供たちとSCやSSWが関わる場面が増えました。また、面識がある子供と様々な話題で立ち話でき、日常的な関係性の中で相談し合える環境づくりに繋がっています。保護者や教職員の相談も、時間枠の確保や定期的な支援がより可能になりました。加えて、小中では、SCやSSWとのSSTの授業や初めての行事に対する不安軽減プログラムを実施する等、様々な支援を行っています。

今後は、小学1年生が少しでも早く学校生活に慣れるような支援を考える等、支援体制の基盤をより強固になるように検討しています。子供や家庭、教職員の誰もが「こんな内容だけど相談してもいいのかな」と思うことでも、まず遠慮なく相談し支え合う環境をめざしていきます。今後ともよろしくお願ひいたします。



附属坂出学園コミュニティスクール (CS) の組織 (案)



コミュニティ  
スクール化に向けた  
コンセプト

- ・地域や保護者の方々それぞれの願いや思いをもとに協議し、生涯学習コミュニティとしてのよりよい活動を生み出す。
- ・学校をフィールドに、様々な人が出会い、関わり合い、喜びを感じ合える機会の充実を図る。そして、子供たちとも関わることで、幅広く深い学びが一層できるようにする。
- ・関わる様々な人々のネットワークの組織化とその広がりを図る。

これまで附属坂出学園のコミュニティスクール化に向けて準備を進めてきました。そして、来年度初めに上図のような組織を立ち上げ、本格的にコミュニティスクールとして活動を充実させていこうと考えています。組織としては、まず学校運営協議会を設置しなければいけません。ここは、よりよいコミュニティスクールとなるよう舵取りを行う組織です。年2回、附属坂出学園に関係する様々な方々から、具体的な取組とその成果等を知っていただき、ご指導・ご助言をいただく予定です。最も重要な組織が、それぞれの活動の実働部隊となる推進委員会です。松韻会の方々を中心に、そして附属坂出学園の強みである様々な人とのつながりを活かしながら、学校支援の充実と生涯学習の場づくりに向けてアイデアを出し合い、企画・運営を行っていきます。地域とともに歩み、香川県や全国のモデルとなるコミュニティスクールとなるよう、皆様方のご理解・ご協力をお願いいたします。

学園地区合同防災研修のスタート

令和2年1月23日(木)、附属坂出学園主催の「第1回学園地区合同防災研修会」を附属坂出中学校にて開催しました。参加者は学園地区の5自治会の関係者、近隣の幼小中7校園の管理職、附属学園PTA役員、東部地区防災福祉部、坂出市危機管理室よりの計40名でした。講師は香川大学危機管理先端教育研究センター長の白木渡特任教授。演題「南海トラフ巨大地震に備える～坂出市の被害想定と学園地区でできることは～」で講演をしていただき、その後、各団体からの情報交換を行いました。

白木教授は、「かがわ防災WEBポータル」を用いて、坂出地区での想定される被害状況や洪水のシミュレーション映像を用いての啓発と訓練の大切さを話されました。また、これまでの優れた対策や事例も紹介しながら、7校園が密集している学園地区が自治体と協力しながら合同防災を進めることの大切さを語られました。

今後も、香川大学や坂出市危機管理室の助言をいただきながら、学園地区の防災の拠点として地域に貢献していきます。



自治会、学校園、PTAが一堂に会して

～ 絆を届けよう ～

幼稚園

お誕生会、読み聞かせ、1年の報告

毎月の誕生会に、誕生月の園児の保護者が参加しています。友達の前で、緊張しながらも大きな声で自己紹介する我が子を見ることができ、とても嬉しいです。12月の誕生会では、お母さんたちによるピアノや鈴、タンバリンの演奏のもと、クリスマスソングを歌いました。お菓子や手作りのカードを大事そうに抱えて持ち帰る子供の姿に成長を感じました。



誕生会

年中児保護者ボランティアによる読み聞かせが本年度も開催されました。大型絵本や紙芝居など、子供たちの喜ぶ姿を想像しながら本を選ぶ時間は、保護者の楽しみの一つです。今年、おばあちゃんの参加もあり、大切な保護者参加活動として広がっています。

保護者も、園行事への参加を通じて、同学年はもちろん異学年の保護者間との繋がりながら園生活を見守ることができました。子供たちだけでなく、保護者も新しい輪が広がることができ、楽しかったです。



読み聞かせ

小学校

英語支援隊ママーずさんの効果

昨年度より、外国語活動や外国語科の授業に英語支援隊(ママーず)さんが支援に入ってくださっています。本年度は、主に3・4年の外国語活動と5年の外国語科の授業で、ALTがない時間の英語の発音指導をしてくださっています。担任や音声教材だけでなく、ママーずさんの話す生の英語を繰り返し聞くことで、子供たちの発音がとてもよくなっています。また、ペアやグループでのゲームや英語でのやり取りをする際に一緒に入ってモデルを示したり、授業の終わりに一人一人と関わって授業の振り返りをしたりしてくれるので、個々の英語の技能はもちろん、子供たちの意欲も高まっています。また、校内の研究授業にもママーずさんに参加していただき、ママーずさんの支援について「子供たちはよい発音を繰り返し聞くことができ、分からない表現があれば、すぐに尋ねて答えてもらえるので英語を使って交流しようという意欲が高い」と称賛の意見がたくさんありました。子供たちにとって、そんなママーずさんたちは友達や保護者という身近な存在でもあり、あこがれの存在でもあります。来年度も引き続き、活躍していただきたいです。



気軽に質問

中学校

みんなの天体観測会

今年度は、12月14日(土)19:00より、ふたご座流星群の活動極大に合わせて開催しました。中学生だけでなく、附属小学校の児童、附属特別支援学校の生徒や保護者など多くの方々に参加していただきました。また、坂出の広報誌で呼びかけたところ、10組の地域の家族の参加もいただきました。当日の夕方、天気が急変して小雨が降る時がありましたが、夜の観察時間になると、空をおおっていた雲が切れて最高の天気になりました。今年、流星の観測としては決してよい条件ではありませんでしたが、そのような中でも、「うわっ、見えた!」「あっ、飛んだ!」など、突然の流星出現に驚き、思わず声をあげていました。天体望遠鏡で見た大きな月は最高で、クレーター等を鮮明に観測できました。みんなが楽しく夜空を観察して自然の素晴らしさを実感することができた意味深い時間となりました。



多くの地域の方々も参加



流星を見つけたり月を観察したり

松韻会

今年度は松韻会が全国規模の大きな表彰を2度受賞しました。

1度目は「日本PTA会長表彰」です。10月13日に行われた日本PTA四国ブロック研究大会においてパネリストとして松韻会の村上副会長がステージに立ち、学園の改革とともに取り組んでいる事業によって深まった親子の絆の事例を紹介し、その功績により推薦されました。

2度目は「キャリア教育に関する文部科学大臣表彰」です。今年で5回目を迎える保護者授業「未来を夢見る授業」が見事受賞となりました。身近な友達の父親や母親が教壇に立ち、職業の紹介だけでなく、社会人としての生き方や仕事に対する情熱を語っていただくことで生徒たちは将来の自分像を想像するよい機会となっていることが評価されました。

このように附属改革とともに、附属坂出学園のよさを今後もPRしていきたいと思えます。

松韻会会長 宮本昌尚



親和会

「多くの人たちと交流できる喜び」

特別支援学校では毎年秋に「ふれあい祭り」を開催しています。これはいわゆる文化祭のような催しで、児童・生徒たちが歌や踊りを保護者やお客さんの前で披露、作業学習で製作した作品や農作物の販売、高等部の生徒たちによって運営される喫茶店の営業、PTAによるバザーなどが行われます。児童・生徒はこの催しを毎年大変楽しみにしています。この「ふれあい祭り」には保護者や家族はもちろんのこと、附属坂出学園の皆さんや地域の方々に多数ご来場いただき、たくさんの人たちと接することができるからです。過去において特別支援学校（養護学校）は一般の方にとってあまりなじみのない場所だったかもしれません。しかし徐々に見えない垣根は低くなり共生社会の概念が少しずつ浸透してきていることを実感しています。「ふれあい祭り」の他にも、校外実習、地域小学校の子供たちとの交流、附属坂出学園合同運動会、また一昨年からは少しずつ松韻会の催しにも参加させていただいています。子供たちはこれらを通じてたくさんの人たちと交流する喜びを感じています。これからこういった機会がますます増えていくことを願っています。



全校生による合唱



制作した作品の販売



地域の方との交流

親和会会長 清水良二

編集後記

附属坂出学園改革の1年目が終わろうとしています。今年度、「人が集まる魅力ある学園」をコンセプトに改革の3つの柱を掲げ、附属改革を着実に実践して参りました。教職員や松韻会全員がそれぞれの活動において、同じベクトルで協同的に教育活動にあたったことにより、改革を大きく前進させることができました。

また、松韻会の活動では、長年の進路学習の功績が認められ、文部科学大臣表彰を受賞したことも附属坂出学園全体の大きな喜びとなりました。今後も、学園の子供の未来のために各校園、松韻会、地域が連携し、しっかりとスクラムを組み、附属改革の波を乗り切っていきたいと思えます。

誌面作成に当たりご協力頂いた皆様には、この場を借りてお礼を申し上げます。今度とも附属坂出学園にご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

発行年月日：2020.3.10

発行事務局：香川大学教育学部附属坂出学園